

2026 年 8 月 27 日

金融庁「FinTech 実証実験ハブ」支援案件 「トークン化預金の銀行間決済」実証実験への参画について

めぶきフィナンシャルグループの常陽銀行（頭取 秋野 哲也）と足利銀行（頭取 清水 和幸）は、このたび、金融庁「FinTech 実証実験ハブ」支援案件「トークン化預金の銀行間決済」の実証実験に、参加銀行として参画しますので、下記のとおりお知らせいたします。

本実証実験への参画を通じて、めぶきフィナンシャルグループは、デジタル技術を活用した次世代の決済インフラに関する知見を深め、将来的な金融サービスの利便性向上や地域社会のデジタル化（DX）の推進につなげてまいります。

※本実証実験の全体概要については、実証実験の申請代表を務める株式会社 DCP のニュースリリースをご参照ください。

【株式会社 DCP ニュースリリース】

2026 年 8 月 26 日 [金融庁「FinTech 実証実験ハブ」支援案件「トークン化預金の銀行間決済」の検証に 43 社が参加](#)

記

1. 実証実験の背景と目的

ブロックチェーンなどのデジタル技術を活用し、既存の銀行預金をデジタル化したトークン化預金は、世界的に実用化が急速に進んでいます。国内でも一部の金融機関で、トークン化預金の取り扱いや発行が始まっており、将来的に複数の銀行にまたがる利用者間の送金が増えた場合、銀行間決済をいかに安全かつ効率的に行うかが、金融業界全体の重要な課題となっています。

こうした背景を踏まえ、両行は、将来の決済高度化や業界動向を見据え、複数の銀行間でブロックチェーン上の直接決済を行うオンチェーン決済について、その有効性や法的・実務的な課題をあらかじめ検証することを目的として、本実証実験に参画いたします。

2. 実証実験における役割

両行は、本実証実験において検証仮説に対する見解の提示などを担う「参加銀行」として参画します。民間銀行主導のオンチェーン決済方式などにおける、24 時間 365 日の即時決済の有効性、適法性、実現性について、地域金融機関の視点から実務的な知見や意見を共有し、検証を進めてまいります。

3. 今後の展開

めぶきフィナンシャルグループは、本実証実験を通じて得られるデジタル金融や新たな決済インフラに関する先進的な知見・成果を活用し、将来的なデジタル通貨やトークン化預金の活用可能性について幅広く検討を進めるとともに、お客さまの利便性向上や地域のデジタル化支援に貢献してまいります。

以 上